



第10回全国合気道指導者研修会

写真は模擬授業の様子

第10回全国合気道指導者研修会（主催＝日本武道館、合気会、後援＝スポーツ庁）が11月4日～6日の3日間、千葉県・勝浦市の日本武道館研修センターで実施された。

昨年に引き続き、感染対策の観点から、参加募集定員を縮小して実施。全国の中学、高校の教員及び社会体育指導者、計27名を対象に、学校教育における合気道の指導法に関する実技と講義が行われた。

1日目（11月4日）

開講式では、はじめに植芝守央合気会理事長が「平成24年度から中学校武道が必修化されて以降、合気道の採用校は71校まで広がり、複数種目として合気道を採用する学校も増えています。今後、さらに中学校や高等学校に合気道の良さをご理解いただけるように取り組んでいきたいと思っております」と挨拶。

続いて、吉川英夫日本武道館理事・事務局長が「参加された皆様は、合気道という教材を使って、中学校において何を教えたのか、それを考えていただけるような実りある研修会になることを期待します」と挨拶を述べた。



植芝守央
（公財）合気会理事長



吉川英夫
（公財）日本武道館
理事・事務局長

■講義・稽古：植芝充央講師

合気道の歴史、概要を映像と資料で紹介した後、基本的動作や技法の稽古を全員で行った。すべての動きはつながっており、重心が浮かないように意識すること。また、相手を信じることでできる稽古を積むことが、信頼関係の構築につながると指導があった。



■実技「合気道授業における指導」：金澤威講師

中学校における合気道授業を想定し、基本的な動作や技の指導法を全員で体験した。

学校の授業では、安全に合気道の良さを感じとれる指導、力比べではなく相手の力を感じることでできる指導、運動が苦手な者でもできる指導などを念頭に、授業内容や技の設定を考えることが重要であると説いた。



■実技「中学校合気道指導法①・②」：日野皓正講師、梅津翔助講師

保健体育科教員・学校関係の参加者は、受身や技の各動作を声に出しながら確認し、合気道の技法の指導法を学んだ。

2日目（11月5日）

■協議・発表「全国指導者研修①」：尾崎响講師、森智洋講師

都道府県連盟関係の参加者は、「女性指導者の普及について」をテーマに、5班に分かれてグループディスカッションと全体発表を行った。

発表では、女性が参加しやすい稽古時間の設定や親子で参加できる施設などの環境整備、指導者の言葉がけや指導者養成など、様々な提案が出された。



■講義「武道指導とハラスメント」：南部さおり講師

武道指導上で起きたハラスメントによる裁判例を取り上げて、どのような言動がパワハラやセクハラに該当するのか紹介した。

また、自分の持っている「～すべき」という感情や価値観を疑うことにより、他者の価値観を認め、歩み寄り気持ちを心がけることがハラスメント防止につながると説明があった。



■実技・模擬授業「中学校合気道指導法③」：日野講師、梅津助講師、桑原将太助講師

中学校合気道指導法班の4名が指導者役を務め、他の参加者を生徒役とした模擬授業が行われた。

本研修会で初めて合気道を学んだ2名は、角落し



と呼吸法をそれぞれ実践。他の2名は、教員と外部指導者の設定で、逆半身片手取り四方投げ（裏）を実践した。

指導者役として模擬授業を行った感想

松井章洸氏（群馬県）

合気道は相手がいて成り立つ武道であり、教育効果が高いのではないかと感じた。

他者を重んじることを重視して教えていきたい。

日高己喜氏（沖縄県）

難しかった。生徒が理解できていない場合には、何度も集合して、説明する必要があると感じた。

互いの力を感じながら技を磨くことを意識して教えていきたい。

3日目（11月6日）

■実践発表「全国指導者研修②」：林典夫講師

中学校で合気道授業に携わっている2名の指導者から、現状報告と外部指導者との関わり合いなどについて発表があった。

また、中学校部活動が変革期を迎えていることや勝利至上主義が見直されている昨今、競うことのない合気道は部活動としても生徒を惹きつける力があるのではないかと発言があった。



閉講式では、林典夫合気会常務理事が主催者挨拶を述べ、全日程を終了した。